【[illegible]十二[illegible]日第三種郵便物認可】　昭和十二年十一月十二日　磐城新聞　【金曜日】　第五千七十六號　〔一〕

夕刊

磐城新聞

十一月十一日發行

定價　一ケ月　金六拾五錢（郵税　拾五錢）
廣告料金　普通　每行　金六拾錢　特別　金九拾錢（五號十二字詰一行）
編輯印刷兼發行人　[illegible]
發行所　福島縣石城郡平町十六番地　磐城新聞合資會社
登錄受信略號（タイラワキ）　平局私書函第十二號　電話五六四番
（日曜祭日翌月休刊）
東京振替一〇八五六五番

長園子氏にお答へ申す

平華生

（三）

それではお說の驗にも書いて出したのが

善光寺で今宵は月見かな

弟子達は嘲笑つて『何だ坊さんこれは句になぞなつて居ないぢやないか。『善光寺で今宵が月見かな』當然だよと申しました。それをじつと傍で聞いて居たのが今夜の宗匠、暫く考へて居た流石は先生だ

『これは〳〵お見それ申し又弟子達の段々の御無禮何とも申譯が御座いません。貴僧樣はたしか西行法師で御座いませう。これだけの句をお讀みになるのは西行樣の外にはありません』

どうぞ〳〵と座敷へ請じ入れて上座へ据ゑ頗る恐縮したのであります。そして眼をパチクリして居る弟子達に善光寺と總讀にするからいけないのだ。これは

善光寺で今宵は月見かな

とお讀み下さつたのだよ。今夜この明月を此寺でこれ程上手に而もスラ〳〵とお作りになるお方は恐らく西行樣以外にはないのだよと弟子達を嗜めたと云ふことであります。

俳聖芭蕉が句行脚をして諸國を巡歷到る處で名句を殘されて居ります。その何れもが至極平易で判りよく而かもその中には言ふに云はれぬ旨味があり再誦三吟倍々その旨さが解る樣な氣が致します。然しその詠まれた當座は兎角批評をされた句もあつたと聞いて居ります。人は棺を蓋ふて後始めて眞價現はると言ひますね。又玉を抱く者その玉の難有さを知らずと云ふ。甲斐や駿河の人達は富士の靈峯を他國の人が崇敬して居る程それ程立派とも難有いとも思つて居ないとも聞いて居ります。又偉人はその郷土に容れられざるもの多しと歷史が吾等に物語つて居ります。何れも眞理を含む話だと信じて居ります

芭蕉が房州白濱で詠んだ句に

あの雲は、いなづまを待つたよりかな

と云ふのが今句碑となつて殘つて居ります。この句の實感は夏でないと現れません。又常陸の鹿島神宮の御神域は廣袤二十四萬坪、社殿古びて神々しく又老樹欝蒼としてとても森嚴です。その境內の要石附近で

枯枝に、烏とまりけり秋の暮

と詠んで居られます

夢の人

野毛正夫

氣うとい夜を
朦朧にすがり
眺めあいたぞ
客の顏

故郷の音信も
何時とておなじ
などで望みが
かけらりよか
泣いて迎へた
昔の客が
今ぢや戀しい
夢の人

11月12日

△獨國ナチスの獨裁確立（一、九三三）△寫眞製版の創始堀健吉歿（昭和九）△陸軍特別大演習終る△アナ系の大檢擧全國に行はる（同一〇）△ノーベル賞委員會で一、九三六年ノーベル賞受賞者六氏決定發表（同一一）

天氣豫報

小名濱測候所發表

今晩は北の風薄曇
明日は南東の風曇後晴

秋涼

孫畏　小野務平

無雨三旬熟未收
仰天大火早西流
黄昏影淡林頭月
斗覺涼思一颯秋

秋雨

山瀨喜代志

○鱗ぐもり部落の靜かさ山脈の彼方過ぎゆく汽車の響きく
○山脈の消ゆるともなき霧こめて泣きたいやうな秋雨の朝
○秋雨に濡れ草刈る朝はどくだみのきつい薫りを我は好めり
○秋雨の細くふりつる朝なり眞紅なダリヤいたく眼に泌む
○山脈の彼方過ぎゆく汽車の響山せまる部落は雨に暮れむとす

納骨庵近況

上

國玉喜輝

私たちの通稱『Kちやん』或ひは『天才』K・T、氏近頃、何をやつて居るかと納骨庵を覗きに行つた。Kちやんは、相も不變大きな書架ヶ六疊の眞中において何か、矢張書いて居る。自畫像の製作中で、門外漢の私には分らぬ作ら、よくもかうしてやつて居ると、絕へざる努力の前に、無條件に頭を下げるのである。やがて、繪筆をおき、つかれた、つかれたと煙草に火をつけると、私の方へ眼を向けず、カンヴアスにおいたまゝ

『國玉よ。今度素晴しいものに手を入れたよ。まさに國寶ものなんだ』

と云ふ。こんな誇張的なものの云ひ方には別段おどろかない私で

『へわ！國寶ものをネ、そして一体そりや、どんなもんなんだらう？』

『大したものさ。池の大雅堂の秋景山水だがなあ。門外不出つて奴さ』

『その門外不出つてやつがなんでまた、輕卒にも、Kちやんの處へなんぞ來たものかな？』

『それがお前、或る骨董屋で見つけたんだよ。偶然に……』

『掘出しものだネ、いわゆる……。見せて貰へないかなあ？それ……』

『駄目、駄目、まだ誰にも見せないんだ』

Kちやんはフーッと煙を天井に吐き出し、ひどく得意さうだ。確信があるらしい

講談

悲戀 髑髏組（どくろぐみ）

(42)

林杢兵衛作
金子士郎畫

廻る小車（三）

『どうも御親切な旦那樣でこんな旦那を、幾代さんはどうして……』

『餘計なことを申さずと早く往け、見失ふではないか』

『へい、ちや首尾よくやつておくんなせえ』

云ひ捨てゝ急ぐ勘太と小六。振り返つて見ると。藤三郎は一散に横道を走つて行く。

『小六。お前あの樣子をどう思ふ』

『先へ行く二人か？』

『うゝん、さうぢやねゑ。仇討の先生よ』

『あゝ、あの威張り屋か』

『威張り屋はよかつたなア。まつたく威張り屋で手に追へねゑや』

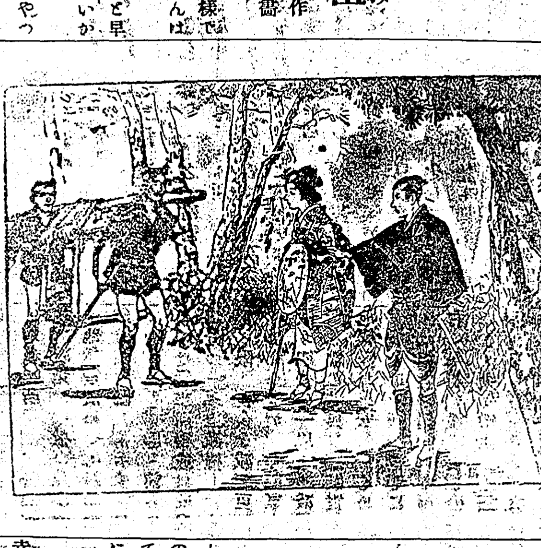
『ありや駄目だぜ。てんで仇討なんかする氣がねゑよ』

『仇敵呼ばりお片腹痛えや！下手に飛び出さうもんなら、アハヽ可哀さうに奴さん返り討だ。大方自分でもさう思つて。あのまゝ横道から逃げるんぢやあるめえかな？』

『俺もそんな心配してゐるんだが今の案配ぢや、矢ッ張り先廻りして飛び出すかも知れねえぜ』

『飛び出せば返り討に決つてらア』

『そこが此方のつけ目だよ？』



『どうするんだ？』

『たんまり持つてるあの有金をそつくり此方へ頂戴と來るんだ』

『それはもうだが幾代さんは一體どうなるんだ？』

『女なんかどうにもならねゑ。そうなりやア、愈々今度はあの浪人と天下晴れての樂しい旅が出來るてわもんだ』

『詰らねゑなア』

『何が詰らねゑんだ。有金を頂戴すりや悪かアねえぜ？』

『氣味が悪いや』

『氣味の悪い位ゐ辛棒しねえ、財布ぐるみ貰やア五十兩あるか百兩あるか判らねえぜ』

『なんだか俺等氣が進まねえや』

『何を云やがるんで、次第によつちや未だ素晴しい考へがおるんだ、とに角急いでおの幾代を乘せねゑちや話にならねゑ』

『その幾代を何んとか——』

『みなまで云はねえで。まア、俺等に任しときねゑ。どんな事になるが……』

『俺等、女せわ物になりやア死んでもいゝぜ。金なんか鐚一文だつて要らねえや』

『次第に依りや。さうもならうてわんだ、早くしねえ』

小六は勘太を急きたてゝやつと追ひたてた。

『おや、丁字屋のお孃さんぢや御座んせんかい』

不意に背後から呼びかけられて、刑部と幾代は不思議さう、振り返つた。

『まあお二人さん、どうでこんなところへ？』

不可解な幾代の顏だ

『へゑ、恥かしい次第でござんすが、おれ以來すつかりこれが本職になりやしてね。どうせ駕籠屋をやる位なら、江戸の方がよかろつてんで、これから出稼ぎに行くところなんで御座んす』と

『それはまア大變なこと——』

怪訝な眼で二人を見てゐる刑部に向つて幾代が

『このお二さ人んは、弓削の井筒から妾を駕籠に乘せて助けて呉れた、勘太さんに小六さんで御座います』

と紹介をした。

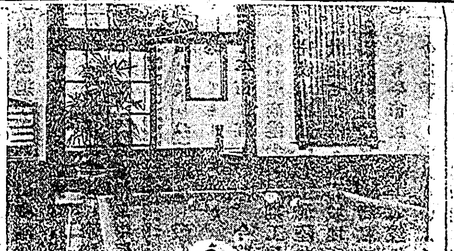
『左樣であつたか。見れば幸ひ空駕籠の樣子、そなたも丁度疲れた頃であらうから。乘つて參つてはどうぢや？』

最新式穴の傷まぬ
洋式ドンコ帳簿
一圓・一圓八十錢
二圓五十錢
書く手間が要らぬ
住所錄（入名簿）
デリカ切拔き
二〇〇名、三〇〇名
五〇〇名、一千名
各種
魁文堂
電話313番

看護婦及ビ見習看護婦　若干名募集ス
希望者ハ履歷書持參本人來院セラレ度シ
北川外科
平市新川町

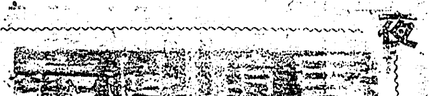
磐城の御みやげ品
名物　靈峰羊羹（名產柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同　七濱……のり羊羹
同　豐間……辨天羊羹
◎各種　一本　十錢
小川郷驛前
製造發賣元　平屋賣店

內臓外科一般（入院隨意）
外科花柳病科
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話　三〇九



秋の行樂と
小瀧
茸狩の季節となりました。當鑛泉裏山一帶も出初めました。初茸、あみ茸、しめじは非常に豐富です。
◎天も澄み心もすが〳〵しい一日の行樂は……
鐵道指定旅館
割烹
小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者　强口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。



夜間診療
內科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平市南町　電一〇七番）
（見習看護婦募集）

酒とマツイ
おでんの榮ちやん
平市田町花ノ里
電話三三番

おでん
一平（イッペイ）
電話二六三番

銃後の活躍に
絕對無故障
フタバの
リヤカーと自轉車
只今製造工場と協力して銃後特別奉仕大特賣會を開催中です。
平市。新川町。郵便局前
フタバ商會

皮膚科
泌尿器科
性病科
專門
診療時間　午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院
電話六九一
醫學博士　江尻伊三郎
入院隨意

出征服特賣
髙
高嶋屋の洋服
新柄　背廣　レンコート
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

平病院
平市警察署側（元磐城共濟病院跡）
（電六四二番）
院主　院長　醫學博士　鈴木定藏
內科
小兒科　院長　醫學博士　鈴木定藏
產婦人科
一般外科
皮膚泌尿器科　部長　醫學士　池谷宗三郎
レントゲン科
物理的療法科　部長　醫學博士　鈴木定藏
技師　岡田重德
藥劑科　部長　藥劑師　吉本孝平
◎診療時間　每日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）
往診隨意（急患ハ此ノ限リニアラズ）
病室完備　入院隨意（自炊ノ便アリ）
入院料一日　特等—貳圓　一等—壹圓五拾錢　二等—壹圓參拾錢

豊年を裏切る哀話！
七割減收が約百町歩
平稅務署から免租稟請

平市外十一ヶ町村に亘る三百八十八名の地主から平稅務署に免租の申請あつた虫旱害地千七百十筆百町二反四畝歩、この賃貸價格二萬五千四十五圓に對しては擧に夫々實地踏査を遂げた處各自の申請に背かずその被害頗る激甚なので左記の如く目下上局に免租の稟請中で不日何分の指令あるものと觀られてゐるが前記申請に對し免租見込み數は旱害六百六十二筆十九町一反五畝、虫害千九筆七十八町三反六畝、合計千六百七十一筆九十七町四反七畝この關係地主三百八十一名である

（旱害）

市町村	地積（畝）	筆數
平	六四	三八
飯野	五〇	一五
豊間	七六四	三六二
四倉	八〇	二三
下小川	二二二	六二
好間	七五	二九
內郷	二一九	三八
湯本	二一三	四五
磐崎	一六四	三一
泉	六〇	一九
（虫害）		
大浦	一二四	一三
大野	七七一二	九九六

好況なればこそ
紹介所の新しい惱み
求人口は心配無用

平職業紹介所ではきのふからの第七回全國職業指導週間に際し應召家族の職業斡旋並に小學卒業生の就職指導に當つてゐるこの週間も兩三年前まではきまつて求人口の開拓一方で各種團體などの應援を得ては白襷がけで市內各商店を歷訪、群がる求職者の消化に努めたものだが昨今の軍需インフレによる好況の波はいつかこれを正反對にし、諸事業の勃興に到る所手不足で求職申込み者が次から次へ片つき紹介所が手を下す迄も無く求人口があるので勢ひ求職者の指導斡旋に馬力をかけねばならなくなつたわけ、同所では好況が齎した世相の變遷に今更の如く感じてゐる

酬ゐらるゝ勤續者
表彰に輝く七名

前記週間中の企てとして同所では來る十五日左記七名の優良勤續者を表彰、記念品を贈るが何れも勤續五年六ヶ月に及んでゐる

（括弧內出身校名）

東京市下谷區松坂屋方高橋助己（原町）　同丹野達雄（玉川）　東京市杉並區高圓寺伊藤淸治方橋本金治（內郷）　市內揚土平商業學校內先崎ツミ（平第二）　東京市品川區大井南濱町渡邊正夫（好間）　市內五丁目スピーデー工場內赤石一郎（內郷）　市內白銀町丸山印刷所方田巻章（同）

鐵道燈管實地試驗

來る十六日からの防空演習に際する鐵道方面の燈火管制に關し高木電力區長、佐藤水戶運輸事務所書記外二名は十一日來平、實地について試驗した

四倉にも從軍門標

今次事變による從軍門標は縣當局の奬勵によつて既報の如く平市で作製したが四倉町でも家族への尊重心と時局意識强化の目的から日の丸に『出征』の二字を配した巾三寸、長さ五寸の同樣門標を作つて此程家族へ贈つた

軍事後援寄附
累計一萬三千圓

平市軍事後援會への寄附金其後の分左の如く累計一萬三千二百七十二圓五十錢

（上平窪）二十圓鈴木庄作　五圓岡部直久　薄葉竹松　八圓鈴木庄之助　十圓根本丑松　二圓根本長平　三圓根本龜次郎　二圓金成雅義　金成德治　二圓大須賀武義　白土一郎　金成淸重郎　金成忠七　根本惣吉　金成淸保　五圓薄葉菊次郎　二圓大須賀周平　薄葉駒之助　成行綱　薄葉庄憲　大平繁春　一圓金成留次郎　一圓五十錢　薄葉正金　一圓薄葉義雄　十圓金成武義　鈴木忠三郎　六圓鈴木多次郎　五圓高橋憲　三圓永井良篤　小川定一　二圓林末代守　一圓草野長命　二圓草野武雄　計百二十九圓五十錢

・。・。・。

公會堂委員會　平市公會堂建築委員會を十三日午後一時から開き三萬五千圓の起債並に寄附採納の報告ある

鐵飢饉緩和講習會
來る廿四日平署に
濱三郡請負業者參集

非常時鐵飢饉緩和のため去月二十日から實施された鐵鋼工作物築造許可規則の趣旨徹底を期すため縣保安課では來る二十四日平署會議室に濱通り請負業者及び一般民の參集を求めて講習會を開く、講師は中川技手

・。・。・。

平市參事會　十三日午前十時から開き臨時出納檢查員互選、防空費支出を附議

陣中を聽く
(15)

高粱畑が水に潜つて
丁度四倉の海の景色
市內中平窪出身　小野藤市君通信

炎暑も何時とはなく過ぎてコホロギが鳴く樣になりました。內地は早や紅葉の季節が來て高く澄切つた空には輕るそうな白雲が綏やかに浮いて嘸心地良い事で御座いませう（中略）北支の日中は未だ內地の盛夏を思はせる暑さですが夜間になれば內地の十二月頃の冷氣です、夜晝の差が餘り嚴しいので（略）それに水が惡いので一度煮沸すると白く濁つて誠にきたない色になります、それを靜かに澄まして飮むのです、私は九月一日に〇〇着と直ぐ〇〇監視部附となり今日に及んで居りますが（略）等の戰跡を見る事が出來ました。又〇〇線に沿ふて石家莊迄の戰跡數十ヶ所見ましたが支那兵もなかなか上手に陣地を造つて居りました

兵舍等も高さ十五米厚さ約八糎の煉瓦の城壁で圍ひその外側には鐵條網や廣い幅の堀を造り戰車の攻擊を豫防して居りました。兵舍の廣さは一里四方位は充分あります。それが至る所にあるのですから驚く外ありません。之を陷落して行く我軍は向ふ所敵無く直に猛虎そのものです。石家莊西方の中腹に橫道を作り我が敵が居りますが爆彈がきかぬらしく相當苦戰の樣です。御承知でせうが北支の水は物凄く見渡す限り高粱畑が大海と化して何十里かしれぬ水、恰も四倉の海の樣です。濁流鎭等に唸つて流れて居りました（後略）

支那文化見學
市內三丁目　友部連君通信

元氣にて南へ南へと進み居り候。正定の古城、石家莊の壯大なる建築、順德の華麗なる城內。何れも支那文化の精かと思はれ候・之地も友軍多く來り、秩序維持に當り居り候。支那人の生活の一端にもふれ古色蒼然たる諸廟を訪ね今後に於ける對支の立場重大なるを覺ね申候・愈よ明後日わたりより第一線に參加致し戰爭の如何なるものかを充分（或は過ぎるかも知れぬ）味ひ得る事と存じ候（後略）

十月二十七日

・。・。・。

西洋料理組合役員　平西洋料理組合は此程の定時總會で役員を左の如く改選　組合長高橋武　副會長高納松三　會計牛谷壽長　幹事會計代理森川泰一郎　幹事三浦彥一　齋藤傳兵衛　高橋利左工門

錦林學區議當選

激戰遂に三位にて克ちました、一般驚異となり市會の前哨戰に見事勝を制したわけ、來るべき市會に自信つきました。これで母の靈を慰むるにたると存じ欣快です　青木生

應召勇士に國稅減免
所得、收益四分の一減損に特典
市町村當務者に指示

平稅務署では來る十五日管內市町村國稅事務主任を招集、出征軍人に對する租稅（地租、所得稅、營業收益稅）減免の取扱ひ及び改訂土地賃貸價格市町村事務整理方法に關し指示する事になつてゐる。即ち前者にあつては從來所得或は收益が二分の一以上減損したる場合に限り稅金を減額更訂したのであるが、今回軍人に限り四分の一以上の減損に對し之の特典を擴張實施し以て銃後を安んぜしめんとするもので所得稅等に在つては相當の異動あるべく、右は今年を經過後その實績により夫々增徵の差額を還付さるゝ筈である。次に改訂土地賃貸價格は九月二十四日より二十日間に亘り告示の上去る二日を以て異議申立期間が滿了となり、玆に愈よ其の確定を見たので本格の市町村事務整理に入る爲の陣容を整へるに至つたのである

姦通で告訴

植田町仁井田砂利採取業淵出井淸（四三）は九日同所土工靜岡縣生れ藤川讓（三三）と自分の妻ナツ（三八）の兩名を平檢事局へ告訴

藤川は淵出井の留守中去る六月頃ナツと關係したと云ふのを理由としてゐるがナツは十三を頭に三人の子供がある

また三勇士散る
燦として輝く武勳

上海戰線の激戰で尊き護國の人柱となつた兩角部隊の勇士は更に今十一日原隊から左記三名發表された、このうち增子健雄君は今月上旬〇〇方面の戰鬪に於ける殊勳者であると云ふ

△好間村增子健雄　△湯本町一等兵藤田源之助　△渡邊村一等兵鈴木彥次

譽は高し！
戰死者の家族

內郷村宮字蛭子出身添田部隊一等兵高橋喜一郎君は上海方面の戰鬪で名譽の戰死を遂げた

同君は出征前まで同業磐城時報の內郷主任をしてゐた

〇

二十二日戰死した双葉郡新山町松迫字道六神出身兩角部隊一等兵遠藤信夫君は出征前まで大浦小學校に奉職してゐた、同君は相馬中學校を經て福島師範二部專攻科を卒業してゐる、實家には妻のぶさん（三二）との間に子供二人

〇

市內五丁目出身大野喜八郎君は添田部隊に屬し上海で活躍中戰死した旨原隊から發表

箱崎伍長戰死
下小川村出身

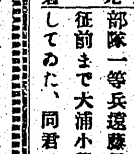
兩角部隊の戰死者下小川村生れ磐中第二十四回生箱崎鑛三郎伍長は大東文化學院を卒業後東京神田の弘道館出版所で敎科書の編輯に從事してゐた非常な勉强家で良きパパであつた、妻女葛枝さん（三〇）長男弘心君（四）と二女は義兄の瀧野川區田端町二三八淺香嘉正氏方に身を寄せてゐる、葛枝さんは原隊から見事な奮戰であつたと弔文を頂いたのがせめてもの慰めです、遺書代りのハガキ通り立派に子供を守り育てますと語つた、實家には父辰彥さん（七五）母はるさん（六五）がある

・。・。・。

二人組銅線泥　勿來町大日本炭礦坑夫佐川源良（三三）外一名は去る八月同炭礦倉庫から銅線五十三貫匁（百圓）を竊取、古物商に賣り飛ばして植田署に檢擧

十二日　（小名濱測候所發表）
滿潮　前一一、二五　後一〇、二五
干潮　前三、五〇　後五、一〇

舊十月十日　金曜
癸卯　先勝　定　亢宿
新十一月十二日



諸判定鑑定
東京市本鄕區湯島四丁目
高島易斷總本部　神誠館

▲一白　滔々として目的に向ふべし次第に功をそうす▲二黑　遂行は見合すが吉取引上の損失を蒙るべし▲三碧　本分に專念なる時は自然に邁進する事あり▲四綠　和合第一として家業に精勵すべし金談破る▲五黃　小事たりとも油斷せず愼重に取扱ふべき日▲六白　外こうをふせぎ內事を整へ英氣かんように適する日▲七赤　物事曲折多くして心つかひのひん繁を極むべし▲八白　華美きよしよくは一家をむしばむ惡趣味と自省すべし▲九紫　はつらつたる發展はなきも都合好く運び行く日

平小鐵道に就て
十一月八日平市會に於ける
永山市議演說摘記

三

さすれば問題は極めて明確になつて來た。要は路線の決定は鐵道省の決定計劃に一任して、別に注文をつけずに只管平小鐵道の早急實現を期すべきか、將た又平市は片濱或は湯本と注文をつけて本鐵道の實現を不可能にするかの二點に懸つてゐるのであります

この點に關しては六日の市會に於て旣に定走してゐる。平小鐵道が今更實現不可能になる、取捨てになつて終つたのではそれこそ大變である。角を矯めんとして牛を殺すといふことがあるが、只我々の常識的な判斷により、或は一部利害關係、因緣情實等の行きがかりにより、片濱通り又は湯本經由を希望するの餘り、この平小鐵道を殺して終ふといふことは出來ないと云ふので、川崎議員の所謂白紙還元、實現促進の緊急動議となり十五對八といふ絕對多數の贊成議決となつたのであります。盛んに片濱通りを固執して讓らざる市政會の中にも酒井淸氏の如きは斷乎實現を期せざるべからずとして本動議に贊成された。この市會の議決により促進委員は去十月十八日出京即日鐵道省當局に陳情したのであります。之の事情を知悉し然も本會議に參加してゐる議員の中に、議場外に於て之の促進運動を不可解なりと稱したものがあるといふ。事實を曲げて市民の判斷を迷はす處の議員といふものは獅子身中の虫と云はざるを得ない。更に甚しきは、我々促進委員が陳情に出京した直後井上議員は片濱通りの陳情員を同道して我々と反對の陳情を鐵道省へやつて來たといふ情報がある。玆で私は更めて言明致しますが湯本なり片濱なりの奪取運動に平市會議員が加はるといふことは本鐵道の實現を不能に陷れる結果になるのであります。前申上げた通り、平小鐵道の實行豫算は旣に昭和十一年より繼續決定されてゐるにも關らず、今後若しこの實現が中絕されることともならば、それは反對陳情運動がその効を奏したことになる。片濱通りから云はしむれば、どうせ片濱を通らぬ鐵道なら殺して終つてもよかろうが、それで平市は宜しいか。今將に小名濱商港の第一期工事の完成を目前にして海陸共に發展せんとする石城地方の產業界の前途を想ふ時私は少くも平市民として本鐵道を今日殺して終ふといふことは斷乎として忍ぶ能はず三萬市民としても亦御同感のことゝ確信してゐる者であります

廣告

國產品で日本を護りませう！
ミツ 防空電球
定價 二十五錢
トウランプ連鎖店にてお求め下さい。

大和田醫院
電話一七〇番

高久病院
院長 高久忠
電話五一三番

平市新川町
五十嵐產婦人科
電三六九

平市南町
根本產婦人科
電三四

自覺視力試驗の設備が御座います。
御自由に御試し下さい。
各眼科處方調製
玉屋眼鏡店
平市二丁目

女子店員募集
一、高等小學卒業又ハ高等一年在學中ノ者。年齡十五歲－十七歲迄
一、應募者ハ來ル十月十七日迄ニ履歷書及卒業成績證明書御提出下サイ
一、委細ハ右期間ニオ問ヒ合セ下サイ
平市二丁目
常陽銀行平支店
電話 三〇・一六四三 番

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
製鐵原料問屋
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
銅鐵 機械
KS 井尻七三郎商店
福島縣平市鍛冶町十一
電話五二二番
荷受場 平市鍛冶町廿三番地
倉庫 平市鍛冶町九番地
御買上品は精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

酒は良し
氣分は滿點
平市田町
おでん 呑兵衛